

—富山県—

富山駅付近連続立体交差事業 ～あいの風とやま鉄道富山駅全線高架化の完成～

1. はじめに

富山駅付近は、鉄道により南北に分断されているうえ、鉄道と交差する2本の主要道路が2車線しかないため、駅南北間の交通が渋滞し、また周辺の効率的な土地利用や一体的なまちづくりに支障をきたしていた。

この改善を図るため、平成17年度に連続立体交差事業に着手した。平成27年4月20日にあいの風とやま鉄道上り線及びJR高山本線を高架供用し、平成31年3月4日に下り線が高架化し、富山駅の全線高架化が完成した。



富山駅高架化完成記念式典

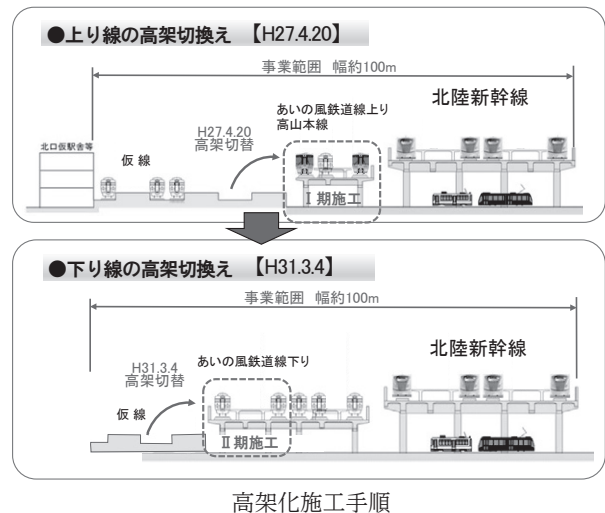
2. 事業着手までの経緯

連続立体交差事業は、踏切の除却が採択要件の一つであるが、富山駅周辺の鉄道を交差する道路はアンダーパスであったため、除却できる踏切がなく事業化することが出来なかった。しかし、平成12年に「大規模な改築を伴う立体道路は踏切とみなす」という要件の緩和が行われたことにより、除却する踏切が無いが、道路を4車線に拡幅する計画を「みなし踏切」として事業化が可能となった。また、平成13年4月に北陸新幹線の上越～富山間がフル規格で認可となったことから、富山駅は北陸新幹線の整備と併せて連続立体交差事業を行うこととし、平成17年に事業認可を取得し事業着手に至った。

3. 高架化の施工手順

富山駅付近は、高層マンションやホテルが立ち並び市街地であるため、新幹線と連続立体交差事業を

同時に行うだけの事業用地を確保することが困難であった。この課題を解決するため、まず富山港線を別ルートで路面電車化し、確保しなければならない事業用地を少なくすることで工事が可能となった。工事については、新幹線開業までをⅠ期施工として、仮線の設置及び新幹線工事と在来線上り線の高架化の施工を行い、次にⅡ期施工として在来線下り線を高架化する手順で工事を行った。



4. 今後の整備

現在、仮線の撤去作業を進めており、仮線撤去後には道路の4車線化工事を行う。また、富山駅付近連続立体交差事業は、あいの風とやま鉄道線の高架化に引き続き、富山地方鉄道本線の高架化を進め早期完成を目指す。

5. おわりに

今年4月21日に、駅南北を高低差なく行き来できる歩行者仮通路が供用となった。また来年3月には、富山駅の路面電車南北接続や南北自由通路が完成予定であり、徐々に事業効果が始まっている。

引き続き富山駅周辺が、県都の玄関口としてふさわしく、活力と賑わいのある都市空間となるよう事業の推進に取り組んでいきたい。

(富山県 都市計画課 駅周辺整備班 竹田 勝博)